基本目標１　　思いやりの心を育む「ひとづくり」

活動目標③　[　福祉の仲間を広げよう　]

地域福祉計画
関連項目
基本施策１－５

■現状と課題

地域福祉活動において、行動を共にできる仲間の存在はとても大切です。一人では難しいことも仲間と相談し考えを出し合うことで、より良い活動を行うことができます。しかしながら、近年、福祉活動の担い手不足や新たな人材の発掘が課題となっています。地域生活課題が複雑化している状況の中、地域住民一人一人がその課題を自分のこととして考えることが必要です。そのために、講座や体験を通じて福祉学習の機会をつくり、福祉への関心を深め、仲間を広げていくことが大切です。

また、地域の様々な組織、団体で取り組まれている活動を他の組織と企画段階から参画し、協働することが必要となります。

■具体的な取組

	取組内容	取組チェック表		
		Ｒ４年	Ｒ６年	Ｒ８年
一人一人が取り組むこと	●地域の活動に誘い合って参加しましょう。			
	●福祉の講座や地域福祉活動に参加し、地域福祉についての理解を深めましょう。			
	●社協だよりや回覧等の情報を確認し、自分のできる活動を考えましょう。			
地域みんなで取り組むこと	●地域福祉に関する情報や活動の情報を提供しましょう。			
	●地域住民が福祉活動の担い手であるという意識を持ち、できることから取り組みましょう。			
	●地域の課題を発見し、地域や団体で取り組める活動を考えましょう。			
社協が取り組むこと	●福祉に関する講座、研修会を開催します。			
	●サロンリーダー養成研修会を開催します。			
	●多様な分野の人材の発掘、育成に取り組みます。			
	●自治会長、民生委員・児童委員、福祉員、各種団体との連携をとります。			
	●ふれあい・いきいきサロンや学校、企業、団体等への「ふくし出前講座」を行います。			

	●一人でも多くの市民の方に介護技術や知識を習得していただくと共に、介護従事者の育成支援を目的に介護職員初任者研修受講支援を行います。			
	●福祉や介護の仕事に関心が持てるよう、高校生や大学生の職場体験学習、実習等の受入に協力します。			
	●２４時間テレビチャリティ募金活動に協力します。			

■５年後の姿

●日頃から地域に関心を持ち、気づき、見守り合う関係づくりができている。
●困った時に相談できる関係づくりができている。
●子どもたちが、思いやりの気持ちや支え合うことの大切さを理解できている。
●若年層や働き盛りの世代を含め、多様な分野から地域福祉を支える人材を確保することができている。
●福祉に関わる人材が増えている。

■ふくし出前講座（福祉教育）とは？

地域住民、団体、学校等の要望に応じ、様々な形で「ふくし出前講座」を行っています。一人ではなく、みんなで一緒に話し合いながら実践していくことで、人と人との関わりについて考えるきっかけとなります。

～講座例～

	内　容	講　師
点字の学習	点字版で点字を打ってみる。	地域ボランティア 視覚障害者
手話の学習	手話で日常会話や手話歌の体験をする。	地域ボランティア 聴覚障害者
車椅子体験	車椅子の使い方、介助方法、バリアフリーへの関心をもつ。	社協職員 施設職員
アイマスク体験	介助方法やバリアフリーへの関心をもつ。	社協職員 視覚障害者
高齢者疑似体験	高齢者疑似体験セットを使用し、日常動作を体験する。	社協職員 施設職員
音訳の学習	視覚に障害がある方へ文章を読んだり、絵や物の形を言葉で伝える体験をする。	地域ボランティア